

2009年度 早稲田大学 政治経済学部

日本史 解答例

I 壬申の乱・関ヶ原の戦い <易>

A 1オ 2ウ 3エ 4ア 5イ 6エ 7オ 8イ・オ

B 1庚午年籍 2宇喜多秀家 3坂上田村麻呂

B 2は「毛利輝元」と答えてしまった人は、まさにその落とし穴にハマったわけである。関ヶ原の戦いは有名なエピソードが豊富にあるが、何もかもを知っている必要はない。あくまでもポイントを突いた学習をしていれば正解できた。受験日本史では、どこまで知識を習得すべきかは独断できない。これが入試分析が不十分な学習環境に置かれている人たちの悩みどころである。

II 田沼時代前後の雑題 <標準>

A [i]b [ii]c [iii]a [iv]e [v]d [vi]c [vii]b [viii]a

B [ix]蘭学事始 [x]玉川上水 [xi]日本国王

未見史料だが思わぬところにヒントが隠れていて正解できる。たとえばA [vii]は「淀のきりぬき」から、淀川の河口付近の分流である安治川を開いた河村瑞賢と導き出す。「材木」とあるのを見て紀伊国屋文左衛門や奈良屋茂左衛門と答えてしまったのでは浅はかと言わざるをえない。

III 条約改正 <やや易>

A 1エ 2ウ 3(i)ア(ii)コ 4イ・ウ 5イ

B 1894年に外相陸奥宗光が日英通商航海条約を締結し、続いて各国とも同様の条約を結び、内地雑居を認めるかわりに治外法権の撤廃・関税率の引上げ・相互最恵国待遇が実現した。1911年には外相小村寿太郎が改正日米通商航海条約を締結し、関税自主権が回復した。(120字)

早稲田では岩倉使節団についての細かい問題がよく出題される。過去にもいろいろなエピソードが出題されてきたが、本問ではドイツの宰相との会見について問われた。知らなかった人にとってはA 1は難問だろう。また、論述問題は年々易化しているが、今年は実にシンプルな問題であった。

IV 大正・昭和初期の対外関係 <やや易>

A 1ニ 2イ 3ロ 4ハ 5ニ 6ホ 7ロ 8ハ

B a青島 b石井菊次郎 c支払猶予令(モラトリアム)

A 4は慶應大でも出題されたことがあるが難問だろう。史料(3)は見慣れないものだっただろうが、B cの設問に決定的なヒントがあるため推測できる。そして内閣が特定できれば、その時期からA 6・A 7が解答できるしくみになっている。A 8は「安奉鉄道」が難しいものの「満鉄並行線」の意味がわかっているならば正解できる。

V 戦後の歴代首相 <やや易>

A (1)イ (2)エ (3)オ (4)ア (5)ウ (6)イ (7)ア (8)ア

B (1)石橋湛山 (2)岩戸景気 (3)男女雇用機会均等法

史料を読んだだけではそれぞれの首相を特定することは難しいが、設問文のあちこちにヒントが散らばっている。極めつけは最後の設問の「国際婦人年」だろう。この年代(1975年)を覚えておいて、そこから内閣を推測するとA(6)が解答できる。

講評

各所に落とし穴が設けられていて、考えが浅いとあっさりそこにハマってしまう問題が多い。こうした問題を克服するためには、ポイントを突いた学習はもちろんのこと、早稲田の過去問を多く解き、解答への合理的なプロセスを知る必要がある。赤本の解説は必ずしも合理的とはかぎらないことも知っておくと良い。